

献辞

松本陸樹教授は、1992年5月に長崎大学経済学部にて講師としてご着任され、助教授を経て2000年5月に教授となり、2019年3月にご定年により退職されました。長崎大学は、先生の長年のご功績をたたえ、名誉教授の称号を授与しました。

本学部にご着任後、先生は、学部、大学院（博士前期課程）において、「経済史」、「世界経済史」などの講義や演習などの教育を昼夜にわたって担当し、教養（全学）教育においても、「社会と歴史」などをご担当されました。さらに、医療技術短期大学部（現 医学部保健学科）などでの学内非常勤講師、九州産業大学大学院、放送大学などでの学外非常勤講師をお勤めになられました。

先生のご研究は、イギリス帝国史、とりわけイギリス東インド会社史をテーマとしています。その研究成果は、まず『イギリスのインド統治』（阿吽社、1996年）として刊行されました。同書は学会誌のみならず、全国紙2紙でも紹介されるなど、大きな反響を呼び、2000年1月には同書に対して京都大学から博士（経済学）の学位が授与されました。その後は、東インド会社廃止後のインド植民地政府と本国政府との財政関係を究明し、さらにはインド省手形をキーワードに18世紀から20世紀初頭までのインド植民地による本国送金の推移を検証し、その成果を「東南アジア研究叢書」としてそれぞれ刊行されました（2003年、および2019年）。

また、本学部が所蔵する資料に関しては、江頭紀代美助手（当時）とともに「戦前期文献」について解説付きの目録を『経営と経済』に発表されました（「長崎大学東南アジア研究所所蔵旧植民地関係機関等刊行物について」(1)～(4)）。さらに、本学部の前身たる旧長崎高商時代の教育について、教え子にあたる大石恵氏（現 高崎経済大学准教授）とともに「旧制長崎高等商業学校における教育と成果：明治・大正期を

中心として」を発表し、本学部の歴史に関する貴重な研究成果となっています。

組織運営面では、講座主任、学生委員会委員長、附属図書館経済学部分館長、副学部長、就職委員会委員長などを務め、本学部の運営に貢献されました。中でも就職委員会委員長職については通算8年にわたって務め、本学部学生の就職実績の向上・維持に大きく寄与されました。

学外においては、長崎地方最低賃金審議会の公益委員を長年務め、その功績により2018年11月に長崎労働局長より表彰され、本年度は同審議会の会長職を務めておられます。

このように松本先生は、本学部の教育、研究などに多大な貢献をされてきました。ここに、教職員を代表して改めて感謝申し上げるとともに、今後のご健勝とご活躍を祈念して、献辞とさせていただきます。

2019年12月

長崎大学経済学会長

長崎大学経済学部長

深 浦 厚 之



松本睦樹教授